連載94 在宅医療奮闘記

平成7年より在宅を開始した私の思い出

（医）東西会 千舟町クリニック院長
橋本 満義（66歳・内科）

時代の扉が大きく開き、洪水のように多くの災難が独居高齢者生活空間を直撃する

ひとくちに独居高齢者といっても、息子さん夫婦が共稼ぎで日中は留守のため、独りで過ごしている場合があります。

数年前のことです。Aさん（69歳、男性、統合失調症・運動障害）は、家族とは別棟に独りで暮らしていました。日ごろ、テレビの通販や電話勧誘での健康食品を勧められるままに購入し、家中に商品があふれているといった状態でした。

1月のその日は、早朝から雨模様の寒い日でした。訪問介護のヘルパーさんから至急の往診依頼があったのです。ヘルパーさんはあまりに動揺しているらしく、パニック状態でした。落ち着かせてよくよく聞いてみると、どうやら浴槽に沈んでいるAさんを発見したようなのです。取り急ぎ私は、車を走らせながら、松山東警察署に連絡をし、死因の事件性確認をお願いしました。

久しぶりの対面となったAさんでしたが、あまりに不幸な結果だと思わずにはいられませんでした。やがて、所轄である松山西署の刑事さんが到着しました。仕事で外出していた息子さんの奥さんも急いで帰宅されましたが、息子さんは残念ながらまだ数時間かかるようでした。不幸中の幸いでしょうか、事件性という最悪の結果とならず、私の判断した季節のいたずらによる急性心筋梗塞で、すべてが決着しました。私は、ほっとする間もなく、次の予定の患者さんの訪問診療へと車のハンドルをきっていたのです。

Aさんの人生は、特殊な病い（統合失調症）と同居しながらの歩みでした。私たちの介護医療サポートは、Aさんの療養生活に、どうお役に立てたのだろうと振り返ってみると、そこには、冷静沈着な私自身がいて、あらためて在宅医療業務経験は人を育むものだと再認識させられたのです。

合掌

一般に、リアルな世界は三次元、時間を入れると四次元です。その上、現代ではバーチャルな世界が追加され、五次元のの世界がうごめいているようです。

超高齢社会到来をふまえ、「オレオレ詐欺」「一部の悪徳通信販売や訪問販売による押し売り」などに対し、地域包括ケアシステムの充実により、その悲惨な被害を少しでも無くそうとしています。

しかし、いかなる組織やシステムも、それに関わるスタッフの情熱とやる気や本気度がなくては、絵に描いた餅となってしまいます。

未来に向けて、力強く前進してこそ、そこに魂が宿り、実行性のある本物となるのでしょう。

「お医者さんが来てくれる」
24時間・365日態勢で対応（松山市全域）
私たちは質の高い在宅医療・看護・介護を目指しています。

医師数 21名
（常勤6名、非常勤15名）
内科・外科専門医 18名
（国立がんセンター勤務歴有3名）
精神科専門医 2名
麻酔科専門医 1名
（ペインクリニック科）
末期がん治療（緩和ケア）相談室開設！

Hyper Blood Viscosity（高血液粘度群）を科学する 臨床生命科学（体質・病態学、栄養学）研究所開設
「地方創生健康長寿研究会」平成27年4月1日発足

機能強化型・有床 在宅療養支援診療所
（医）東西会 千舟町クリニック
松山市千舟町6-4-9 Tel:089-933-3788
http://www.touzaikai.jp/